

おもしろいこと、珍しいもの、どんなことでもいいので耳よりな情報をお知らせください。
三好市 秘書広報課 ☎ 72-7646

健康とふれあいの森 新たな出発

4月26日、三野町にある「健康とふれあいの森」で市民、関係者350人が集まる中、オープニングセレモニーが開かれました。今年度より指定管理者となった公益財団法人徳島県勤労者福祉ネットワークは、子育てや勤労者の支援などを行っています。「健康とふれあいの森」では様々な企画を行い、幅広い層に喜んでいただける事業を予定しています。

式典の後、ビッグしゃぼん玉や子どもじゃんけん大会、キャンプテント体験などが行われ、多くの親子連れが1日を楽しんでいました。



親子で楽しくわらべうた

4月27日、未就学児童を対象に岡山わらべうたの会代表の脇本幸子さんを講師に迎え、「親子で遊ぶわらべうた」が市中央図書館で開催されました。参加者は先生の優しい歌声に合わせて、親子で触れ合いながらいろいろなわらべうたを歌い、親子の絆を深めました。脇本さんからは「わらべうたは母国語の離乳食。子どもたちにはまだまだ離乳食が必要です。素敵な日本語を伝えてほしい」と語られました。また、午後からは、わらべうた講習会も開催され、参加者は熱心に耳を傾けていました。



相互応援協定調印式



災害時に相互応援 広島県三次市と協定

三好市は、大規模災害時に職員派遣や物資提供などを盛り込んだ相互応援協定を広島県三次市と4月23日に締結し、黒川市長と三次市の増田市長が三好市役所で協定書に調印しました。三好市では、これまで観音寺市、四国中央市、三豊市、岡山県高梁市と同様の協定を結んでおり、今回が5例目。遠隔地にある自治体と結びつきを持つことで災害に備えようと2月に両市長が協議し今回の協定が実現しました。調印式では、市民の安全安心に向けた取り組みを進めるとともに、協定を契機に幅広い交流に繋げていくことを誓い合いました。

受入家庭を対象に研修会



「農山村の暮らし体験」を訪れる修学旅行生の民泊受入家庭を対象に4月24日、一般社団法人そらの郷による受入研修会が開催されました。研修では、三好保健所による食品衛生管理や消防署員による応急処置対策など、安全に体験を行う上での留意事項について具体的に学びました。そらの郷では、2市2町で5月6日に17校約2000人の生徒を受け入れる予定です。都会からやってくる修学旅行生に、ほんものの田舎体験を経験してもらうため充実した研修となったようです。

多彩な芸能や芸術を披露



第8回三好市文化まつりが、4月19日と20日、市中央公民館を主会場で開催されました。初日は芸能演武の部として民俗芸能や舞踊、2日目は洋楽邦楽の部としてコーラスや大正琴など市文化協会に加盟する団体や個人の方が日ごろの練習の成果を披露しました。また、ヨンデンプラザ池田では華道作品などの展示、市中央図書館市民ギャラリーでは、繊細なタッチで描かれた和紙ちぎり絵が展示されており、来場者はステージでの優雅でしなやかな舞踊や多彩な芸術作品の展示を楽しみました。

踏切事故に注意 対処法学ぶ



4月10日、JR阿波池田駅に隣接している踏切で、踏切事故の防止訓練や交通安全キャンペーンが行われ、池田第一保育所の園児や三好署員、地域の安全を守る会の会員など約50人が参加しました。踏切内で車が閉じ込められた場合を想定し行われた訓練では、慌てず車を進めて脱出する方法や発炎筒・非常ボタンを使った緊急時の対処方法などを学びました。また、踏切を渡る歩行者や通行車両などに、園児が、啓発パンフレットを配布し注意を呼びかけました。

満開の桜のもと 厳かに箸蔵寺春の大祭

4月12日、箸蔵寺で恒例の春の大祭が行われました。ちょうど満開を迎えた桜のもと、僧侶らは、ほら貝などの音色に合わせて、4歩進んでは立ち止まるという伝統ののっとり、本殿に向けて約1時間かけて厳かに練り歩きました。本殿では、大般若転読法要が行われ、読経をはじめると多くの参拝客が無病息災や家内安全などを祈願しました。この後、本殿横の広場では日用品などが当たる福もち投げも行われ、大変賑わいました。



新規学卒就職者決意新たに

4月23日、三好市内の事業所に就職した若者を激励する三好市新規学卒就職者歓迎式が池田総合体育館で行われました。三好市と三好市商工会および阿波池田商工会議所が主催したもので、今年は、市内16事業所35人のうち、24人の就職者が出席しました。

黒川市長らの歓迎の言葉の後、株式会社リブドゥコーポレーション徳島三野工場の浅田知希さんが新規学卒就職者を代表して、新社会人としての決意を述べました。式の後には、接遇対応の研修が行われ、社会人としての身だしなみや言葉使い、電話対応などを学びました。